

令和7年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 最終)

昭路北中学校区 校番 17 学校名 呉市立昭路北中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学力	① 基礎的・基本的な内容の習得を図り、思考力・表現力(コミュニケーション力)を養う。	対話的な授業による学習意欲の喚起 基礎学力の向上 自分の志を表現できる生徒の育成 言語能力、情報活用能力、課題発見・解決能力等の育成	○「学習意欲の喚起」について、アンケート調査の結果は目標値を下回っている。しかし、目標値に対しての達成度はおよそ90%と高い数値であると考えられる。 ○「1か月の間に本を1冊以上読んでいる生徒の割合」は、達成度97%であり、目標値に近い結果となっている。今年度から朝読書の時間短縮や図書室の昼休憩の開館から給食準備中の開館への変更で影響が心配された。目標値が65%であり、さらなる読書活動の推進が必要である。 ○キュビナの活用については、「月100冊以上」が目標値に対して達成度90%となっている。5月の大型連休や長期休暇での活用が多い傾向にある。	○授業の工夫改善を今後も継続していく。10月に、北中校区の合同研修会で北中が研究授業提案を予定しており、それを生かしていく。 ○朝読書、図書室の活用、学級文庫など読書環境づくりを継続する。また、図書委員会等による本の紹介等の活動を進める。 ○キュビナの活用場面、頻度、内容等、効果的なキュビナの活用方法について各教科で連携しながら進めていく。
豊かな心	① 基本的な生活習慣を身に付け、進んで他者とかわりながら、社会に貢献しようとする生徒を育成する。	「自らへの自信」の涵養及び道徳的実践力の向上 規範意識を涵養 不登校生徒を減少させる 安心・安全な環境	○「自分にはよいところがある」と思う生徒の割合84%学校に行くのが楽しい89%と目標値を達成している。日々の授業での教職員の見回りや声かけの成果が出ていると考えられる。 ○自らあいさつしようとする生徒92%と目標値を少し下回った。生徒会や保護者による挨拶運動を行ったが、一部挨拶できない生徒がいる。教職員が率先して挨拶していきたい。 ○「自分が住む地域に起こりやすい災害」や避難場所経路については、広島県砂防課による出前授業で自分のタブレットや地図で確認するなど有意義であったが、参加できていない生徒への授業が課題が残った。保護者参加型の授業や講演会があればいいと思った。	○日々の教職員の声かけを継続していく。 ○生徒会による挨拶キャンペーン活動などを取り入れ生徒が主体的に挨拶できる機会を増やしていく。 ○月に2回のケース会議を継続し、教職員間の情報共有を継続していく。 ○校内の避難訓練を実施し、消防など外部機関と連携し、知識を高めしていく。
健やかな体	活力があり、主体的に体力・運動能力の向上に取り組む生徒を育成する。	活力を喚起する体験活動の充実 家庭・地域・学校生活を通しての主体的な体力づくり、運動能力の向上	○学校行事や生徒会活動等に満足している生徒の割合90%で目標値をやや下回った。しかし、体育大会では多くの生徒が活躍し、生徒会も様々なキャンペーン活動を行うことができた。今後も生徒会を中心として多くのキャンペーン活動など活性化させていく。 (体力づくり、運動能力の向上については、最終評価の際に分析します)	○生徒会によるキャンペーン活動がとても有効であったので、2学期も生徒会によるキャンペーンを行っていく。 ○文化展示発表会での自己表現活動など新たな生徒から出た企画を取り入れ行事の活性化をはかる。

業務改善	持続可能な教育環境の整備 長時間勤務の削減	教育活動へのやりがい 長時間勤務の削減	○「日々の業務の中で充実感を得られている」と感じる教職員の割合は85%で、目標通りの結果だったが、さらに充実感が得られる職場を目指したい。 ○時間外勤務が月45時間を超えない教職員の人数の割合は65%で、目標の100%を大きく下回った。月80時間を超える教職員も複数いるため、改善が急務である。	○職員間のコミュニケーションが円滑に行われる職場環境をつくるための方策を考え、実践していく。 ○時間外勤務の削減に向けて、週1回の定時退校が徹底できるよう、会議や業務の精選を図る。
------	--------------------------	------------------------	--	---